

# 色彩について

阿 山 勇 祐

幼児の描く絵が暗いので、明るい色を使うように指導しなきゃあ、ということを幾度か聞いたことがあります。ははあー、そんな指導も必要であるかなと思ったことがあります。

私はそのことについては、関心がありませんでした。

ある時、母親が、先生もうすこし明るい色を使うように指導して下さいと言われました。わけを詳細に聞くことになりました。黒とか、青とか、緑などは余り使わないで、赤とか、黄とかの色で描くように教えて下さいということです。

その頃、うちの子は絵が下手だから、みて下さいと頼まれていましたので、特別に指導していました。

それで、お母さんに日本人の子供を描く時、黒髪の代わりに、黄で描いたら、黄髪の日本人の子供になるでしょう。また、濃くなった夏の緑を黄緑で描くとおかしくはないですか、と話しました。理解が出来たような顔をしておられました。その子は小学校3年生の男子で一人子であります。

やや写生の域にも達しなければと思って、私はそういう例を取り上げました。

ここで一寸、横道にはいりたいと思います。昔は、小学校の4年生になりますと、写生の領域には行って行きました。ここで待ち受けていますことは、図画が好きになりますか、嫌いになりますかの岐路であります。岐路についての事例を上げます。下手と言われた（自然の再現が下手の意）、笑われた（猫を描いたのだが、ねずみに似ている。つまり形が端正でない）等が上げられます。根本問題といたしましては1. 視覚型か、2. 非視覚型に二分されることであります。更に言いかえれば、1. 見て描く方が良いか、2. 見ないで描く方が良いか、であります。見て描く方は子供なりに、自然を感知しまして、自然を基盤にして描きますので、評価が高くなります。見ないで描きますのは、記憶か、記憶の呼び起こせない子供は、好きな色にしまして自然より離れてきます。従って想像によりますので、自然の再現より遠のくことになります。先生の評価は、必ずしも良くないということになります。

評価をします、先生の側も自然の再現という考え方が、専らであったといえます。

まあ、このけしきは絵に描いたような。この、とうがん、ほんものみたいに描いてある。この言葉のようなものが頭の中にあっただと思います。

本道にかえることにいたします。

明るい絵を主唱した人といえますか。明るい絵が良いといった団体といえましょうか。人格

形成に欠くことの出来ないことは明るい絵を描くことでありますと、発表した研究所といたしましょうか。今それは、とやかく言わないで、明るい絵の意味を考えたいのであります。

かいた絵は、まことに爽やかであります。塗りたい絵は鈍く、重たく明快がありません。前者のような絵を明るいというのでは無いでしょうか。後者のように、重色が過ぎて、鈍く、こげついた色が暗い色というのだらうと思います。戦後、太陽の研究、赤と緑の研究、茶色と黄土の研究、紫の研究等、先生方の活躍がありました。そのうち茶色と黄土の研究では、ぬすみと、夜尿性の問題にふれられていました。そのような精神状態と暗い絵が折り重なって、陰鬱な絵になったのでは無いかと思えます。

本学の学生に聞きました。黒と黄（純色）を並べまして、どちらが出て見えますか。については、黒がひっこんで、黄が出て見えると答えます。何時から知っていますか。の問に対しまして、小学校の高学年、中学からと答えますが、無解答の学生もおります。

こんどは、黄色をこすって、黒はそのままにして、並べて見せます。どちらが出て見えますか。はい、黄色が出て見えます。目をほそめてゆっくり見て下さいと話をしていただきます。しばらく見ているのですが、中の数人がおそれながら、黒が出て見えます。と答えますと、あとの学生は、それほんとな、という顔をしておりました。

私は、保育科の学生に木炭画をやっております。昔ながらに石膏を木炭で木炭紙に描かせております。この木炭紙は、フランス製の上等な紙です。一生に一度くらいこんな紙に描いて、勉強しなさいと言っております。石膏デッサンか、古いね、と言われるかも知れません。なまの黒と、こすった黒の違いを知るためにも大切なことだと思っております。ひいては、水彩画を描く時のこねる意味も、わかると思います。

本格的な木炭画は、先ず形が端正なことと説明はいたします。学生のみなさんには、形は不十分でも良いことにしまして、マッスと出て来るニュアンスが理解できればと思います。再度書きましたように保育科の学生のみなさんです。それが幼稚園とどんな関係がありますか、という顔をしております。そのうちわかってきます。保育科の第一回目から、唯今まで19年間になります。これが私の保育科とのかかわりあいでもあります。

一寸、かけ離れた話であります。20時頃でしょう電話がかかりました。相手は宮崎県の卒業生です。夜分、遅く申し訳ありません。研究保育をやることになりました。フィンガーペインティングをやりたいのです。メリケン粉と水の割合と、絵具の入れ方、及び粉セッケンを、何時入れますかと、たずねてきました。すぐ答えてやりましたが一生懸命な声のひびきに、私も若返った感じでありました。

度々、中心点よりハレー彗星のように、楕円形にそれてしまっていますが明るい絵の意味が、どのあたりで曲がったのでございましょう。

昭和5年に山口県師範学校を卒業いたしました。私自身をふりかえってみる必要もあろうか

とあって、その当時に回想したいと思います。

卒業はいたしました、下手な音楽が気がかりでした。それでも音楽をやる気でおりました。姉も教員をしておりまして、オルガンを持っておりました。そこで朝に夕にフガフカと弾いて遅れを取りかえしておりました。小学校4年の女兒を担当して2、3時間音楽の授業をいたしました。隣の教室は、島根師範卒の若い女の先生であります。授業が終わりました。優嬌のよい先生は、一層にこにこしながら、私の教室に入って参りました。私は何事かなと思いました。

ねー先生、オルガンの音が余り良くないので、子供がかわいそうですよ。しかも女の子でしょう。私は、図画が得意で無いので、授業を代わって下さいよ。私が図画を教えるのは、先生が音楽を教えるのと同じですよ。ねーお願いします。

そこで、とびついては足もとを見られるだろうと思ひまして、一呼吸いたしました。そして交替の返事をいたしました。

今考えれば、先生が教室に入って来た時、ドキッとしました。足もとをみすかされての交渉で冷汗ものです。暗い音楽と暗い図画が交換することで、明るい音楽と明るい図画になりました。

余談になりますが、本人から聞いた話を紹介いたします。三千円の勸業債券が当たりました。(当時家が一軒建つ時代です)喜んだ拍子に、腰が抜けて動けなくなりました。そこで医者にかかったり、別府に入湯に行ったりするうちに、みな使ってしまったと。

A大学の小学課程の図工を担当いたしました。みなさん、小学校の時、図工の得意な方と、不得手な方があったと思います。子供の時を思い出して下さい。先生方は親切に指導して下さいと思います。すると申し合わせたように、数人の学生は職員室で煙草をすっていました。これはまずかったかなと話題をかえました。

私は色についての調査を度々行いました。今考えて目的が思い出せません。1. どの色が好きか、がはじめの調査だったと思います。2. 使用色は、画面の何%くらいあるかも調査しました。八つ切に好きな絵を小学二年生の男子に描かせました。集計するのに苦労しました。昔は暗い絵を描かせるな、そんなことは言いませんでした。3. 町を行く人々の服の色、つまり着物の色を調べましたが、調べただけで、けっきょく、用に至らなかったようです。調べるだけで、東京へ出向の時、処分をしたかと思ひます。なにがしかは持って行ったと思ひますが、東京空襲の時みな土に帰りました。

暗い絵のために再び色の調査をはじめました。

つまり、幼児より赤が好きか、黄が良いか、暖色系か。反対に黒や青や緑の好きな子はいないか、寒色系か。そんなことから、次のような調査事項がままりました。

#### 調査要領

1. 用紙1枚を横にしまして五等分にします。

2. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短大と記入いたします。

3. その時、即ちその時代の好きな色、よく使った色を一色記入します。

集計については、各列の黒板に近い方に集め、そこで小計をいたします。

次の集計、黒板に向かって、右側で合計をいたします。まわりの学生は、適宜手伝いをします。

教師は、寒-寒、寒-暖、寒-無彩色、次いで、暖-暖、暖-寒、というように分類をいたしました。短時間で結果が出るように考えました。

ここで、お断りしておかなければいけないことは、緑と紫の取り扱いであります。緑は寒系に、紫は暖系に入れて計算いたしました。

昭和58年度 表1 保1と保2の集計

時 代	よく使った色または好きな色、											
幼稚園	赤	ピンク	黄	青	緑	白	エンジ					
保1	33	15	5	1	1	1	0					
保2	34	15	4	5	0	0	1					
計	67	30	9	6	1	1	1					
小学校	赤	ピンク	青	黄	緑	白	橙	紫	灰			
保1	17	20	9	4	3	1	1	0	0			
保2	16	11	20	17	4	2	0	1	1			
計	33	31	29	21	7	3	1	1	1			
中学校	青	ピンク	白	緑	黄	赤	黒	灰	茶	紫	ベージュ	橙
保1	14	12	9	1	2	6	3	1	1	3	2	0
保2	15	12	12	9	7	2	2	3	3	0	0	1
計	29	24	21	10	9	8	5	4	4	3	2	1
高等学校	青	赤	緑	黄	ピンク	白	灰	黒	紫	茶	銀	紺
保1	18	8	6	7	2	2	3	5	2	1	1	1
保2	20	11	6	5	8	5	4	0	3	0	0	0
計	38	19	12	12	10	7	7	5	5	1	1	1
短大	青	白	ピンク	赤	灰	黒	黄	緑	茶	クリーム		
保1	10	6	11	7	8	6	3	2	3	0		
保2	21	15	7	6	3	3	6	4	3	1		
計	31	21	18	13	11	9	9	6	6	1		

昭和58年度 表2 暖、寒よりの移行

個人が、幼稚園から、短大に参ります間を、暖-暖といたしました。個人を見ますと、暖-寒-暖という移行も見られますが、幼と短を見ました。

移行 \ 学年	保1	保2	計
暖-暖	16	16	32
暖-寒	17	21	38
暖-無 ↓ (無彩色)	19	21	40
寒-寒	2	4	6
寒-暖	3	6	9
寒-無	1	3	4
無-暖	0	1	1
無-寒	0	0	0
無-無	0	0	0
計	58	72	130

表1、表2で計が違うところがありますが、思い出せないのは書かなくてよろしいと言いました。お断りいたします。

第一回目の調査で、幼い時からの環境でありますか、親からの指導によりますか、本来持って生まれたものによりますか、わかりませんが、それぞれ好みの色、またはよく使いました色の集計が出てまいりました。

表1におきまして、青6、緑1と問題の色があります。

表2の数字も寒から寒に続いたといたしますと、持ちまえと考えると良いかと思えます。これについては、個人の追跡調査はいたしておりませんが、必要であろうかと思っております。

私は、プロシャンブリュウが好きな色です。絵を描く時画面の至る所に使用はしなかったと覚えております。

長女が2歳頃の話であります。緑色の葉を取って持たせますと、アッパ、という話を思い出します。母親は、この子を色盲ではないかと心配したと話しておりました。

2歳11か月の孫の涼子に、おばあちゃんは言いました。涼子ちゃん、この塗り絵持って帰って、塗りなさいよ。ママはこんなの嫌いだから、持って帰らない。こんど下関に来た時に描くよ。人の関係を説明いたしましょう。おばあちゃんは、私の妻です。孫は次女の長女です。次女の説明をいたします。自然食が好きで、甘いものを好みません。保育科卒です。塗り絵は私

仕込みでしょう、嫌いなようです。色は青系で赤系を好みません。孫はおばあちゃんの所に来ると、塗り絵を楽しみ赤のズックをはいて買物について行きます。新幹線に30分乗って下関に来るのが楽しみです。親が子を見ると言いますが、子供の方が親を知っているのに驚きました。

昭和59年度 表1 保1

時 代	よく使った色、または好きな色。									
幼稚園	赤	ピンク	青	オレンジ	黄	白	緑			
	33	10	9	3	2	2	1			
小学校	青	赤	ピンク	黄	緑	オレンジ	白	紫	黒	
	17	15	9	8	4	2	1	1	1	
中学校	青	白	赤	ピンク	黒	黄	紫	灰	オレンジ	緑
	19	13	9	6	5	4	2	2	1	1
高等学校	青	黒	黄	ピンク	赤	白	緑	紫	灰	
	11	11	7	7	6	5	2	1	1	
短 大	青	ピンク	赤	白	黒	黄	緑	紫	灰	
	13	12	10	10	7	5	4	1	1	

昭和59年度 表2 保1

学年	体行
暖-暖	24
暖-寒	11
暖-無	13
寒-寒	3
寒-暖	4
寒-無	4
無-暖	1
無-寒	1
無-無	0
計	61

表1の幼稚園を見まして青は3位にあります。緑の1を入れますと、6分の1と大きい数になります。小学校におきましては1位におどり上っております。

また、孫の話になります。1歳3か月から2歳あたりまでのことです。クレヨンを出しますと、喜んで描きました。水彩絵具で描きたいと言いますので出します。無間にまぜて描いていました。描くのではなく混色を楽しんでいます。なれてまいりますと単色で描くようになりました。黒とか青を使ううちに、何時とはなく暖色になりました。日曜日には大抵来ます。用紙はうすくて描きづらいので、四つ切の画紙を数枚は使いました。今は小学校の3年生になりました。好みの色は暖から寒に移ったと言えましょう。母親がぐちを言います。小さい時は赤系が好きでしたが、知らない間に青系になりました。雨靴を買いに行きました。赤い雨靴がいいねと言うと、青い雨靴が良いと言ったので気がついたと申します。私に如何にも裏切られた、というような言い方をいたします。そして気が休まった様子でありました。

昭和60年度 表1 保1

時 代	よく使った色、または好きな色。												
幼稚園	赤	青	ピンク	黄	オレンジ	紫	白	水色					
	26	6	4	4	2	1	1	1					
小学校	赤	青	ピンク	黄	白	グレー	水色	オレンジ	紫	茶	紺		
	13	10	7	6	3	2	2	2	1	1	1		
中学校	ピンク	青	水色	白	赤	黒	黄	紫	緑	オレンジ	茶	グレー	レモン
	12	7	6	6	5	3	2	2	1	1	1	1	1
高等学校	ピンク	黒	青	赤	白	水色	グレー	黄	緑	紺	紫		
	11	11	7	4	3	3	3	3	2	1	1		
短 大	ピンク	青	白	黒	赤	水色	紺	オレンジ	緑				
	18	10	8	6	3	2	1	1	1				

昭和60年度では、青、水色、紺というのを取り上げました。要約して青にすればと思いましたが、それぞれの言い方で種類と僅かな感度を考えまして、別々に取り上げることにいたしました。次いで、赤とピンクの考え方であります。赤を純色と考えれば、ピンクは別項として独立します。赤を色相と考えれば、この中に入れた方がよいかと思いました。黄とレモンも、同様な考え方です。

少数ですが、緑、紫、茶、ワインレッド、ページェ等は、それなりの支持者を尊重いたしました。

高等学校、短大の好みの色、よく使う色という見出しであります。服飾との関係がありは

しないかと思いました。道行く若い女性の身に着けた服の色はグレーを主調にした、青味、ワインカラー、黄味、茶味、紫味が多く、その間に白と黒のあるのを思い浮かべます。すると、私の調査の目的とずれた感じもいたします。

昭和60年度 表2 保1

学年別	人数
暖-暖	14
暖-寒	11
暖-無	10
寒-寒	3
寒-暖	4
寒-無	0
無-暖	1
無-寒	0
無-無	1
計	44

毎年の、統計を大切にしようと思っております。それは、組み分けによって出来る、組の性格があります。学年の組み分けは色々あります。1. 五十音に並べて取ってゆきます。2. 生年月日に並べて取ります。3. 席次がわかれば、使います。

59年度と60年度でも出来、不出来はあります。年度によっても違います。

このようにして分けた組でも、しばらくすると一方は活発に、一方は沈黙していきます。担任教師は、自分の責任で受け持った組が悪くなるのを願う者はありません。現実には、一方は成績が伸びますが、一方は伸びなやんでいる、という状態があります。私のながい教員生活の中での経験であります。何がどう作用するのか解明に苦しむものです。

小学校であれば、先生に似て賑やかな組になったり、先生に似ないしとやかな組、など上げることができます。中学校、高等学校になりますと、教科毎に先生がかわるのに、組の性格が形づくられてまいります。精神的なものが、形になって表れて来たものと思われま。

朝、人に会います。心の中でお早ようというだけではなく、お早ようと声に出し、頭を下げて形に表して、朝の挨拶が終わります。すると心が爽快になります。そんな意図的なものでなく、組の性格が形づくられて来ることは、学校の伝統精神もあるだろうと思います。組にリー

ダーシップを取る生徒がいるか、いないかも関係があると思います。私もわかりかねております。

本道に帰りまして、前に述べましたように、毎年の組の性格を見ていきたいと思うのであります。また一方、3か年のまどめをすることによりまして、何かの緒口をさがさなければいけません。

昭和58年・59年・60年度の合計 表1

年 代	好みの色、またはよく使う色。														
幼稚園	赤	ピンク	青	黄	オレンジ	白	紫	水色							
	126	44	21	15	6	4	1	1							
小学校	赤	青	ピンク	黄	白	オレンジ	紫	灰	黄	茶	黒	水色			
	58	58	50	32	7	4	1	2	1	1	1	1			
中学校	青	ピンク	白	赤	緑	黄	黒	灰	茶	紫	水色	ベージュ	レモン		
	58	40	34	19	15	14	10	7	6	6	3	2	1		
	オレンジ色														
	1														
高等学校	青	赤	黒	ピンク	黄	白	緑	灰	紫	水色	茶	銀	紺	黄土	紺
	59	31	28	23	19	18	14	11	7	3	1	1	1	1	1
短 大	青	ピンク	白	赤	黒	黄	灰	緑	茶	クリーム	紺	オレンジ	水色		
	59	45	37	30	15	14	12	12	6	1	1	1	1		

昭和58年・59年・60年度の合計 表2

移行	学年計
暖→暖	70
暖→寒	60
暖→無	63
寒→寒	12
寒→暖	17
寒→無	8

無一暖	3
無一寒	1
無一無	1
計	235

幼児の赤は、幼児の赤であります。玩具にある赤は、洋紅に近いもので明度の高い派手な赤であります。幼児は赤に目をひかれると言われますが、コココーラの箱のような沈んだ赤ではありません。赤と一口に言うてしまうので迷うことが多いようであります。白の混じった薄い赤、ピンクと言てよいでしょう。それに僅かな黒が入りますと、灰白のピンクになります。

西洋の老人は、赤を使っていると一口で申します。しかし安来節を踊るネーさん達のけ出しの赤ではありません。度合いを表す標準がないので申しかねます。

日本の若者達の衣服の赤ですが、身に着ているかと考えます。過渡期だと言えればそれまででしょう。毎日着ておればやがて身につくだろうと思います。偽でも三回言えば真実になると伝え来ております。我が国でも季節感と色感は無関係ではありません。春ともなれば着る物も薄い色、葉の花に、桜それに外界の気温も関係し合って、全く天下太平の感が強いいたします。黒が入れば、沈んだ地味な赤になります。赤の色感情を読みますと、漸次に移りかわりまして、反対の言葉が出てまいります。意味が出てまいります。意味がつかみ難くがっかりしました。至誠、赤心、鮮やか、重たい、下品等であります。赤といえは純色の赤を考えます。赤の彩度を示す表に従って、説明が書いてありますと、納得ができたと思います。

幼稚園で、緑の使用の少ないのは、どんな理由によるものなのでしょう。暗い絵の側からみますと使わない方が良いでしょう。

アラスカの子供達にクレヨンをお土産に、持って行きました。すると喜んで一斉に緑のクレヨンを取り上げた。というのを半世紀も前に読みました。白い世界で緑に飢えていたと思われる。

ある絵具屋の、A外交員の話であります。日本の東北地方では、秋ともなりますと、赤、黄、黄土、褐色等の一本売がよく出ると聞きました。古い話であります。次の話もいたしました。山の中の小学校に参りました。おい絵具屋、丁度よい所に来た。先生方のスケッチ会をやるので、君も描き給え、絵具屋なら多少絵も描けなければ、と言われましたので先生方と共にクレヨン画を描きました。先生方も描き上がったので、まわりに並べてお互いに批評をいたしました。最後にどれが一番良いかということになりました。絵具屋だと決まりました。色々聞かれました、美術学校卒と言わなければ、いけなくなりました。身元が判明いたしましたところで、色もあかぬけしている、などおほめにあずかったそうです。

私は東京で十年ほど、生活いたしました。はじめ吉祥寺に2年余りおりました。美しい緑の町です。そばの井之頭公園に行きますと、緑と水と空でありました。こんな所の点景人物の色

は黒いシャツと言いますより、赤、朱、橙等を連想いたします。次いで小石川区林町に下宿いたしました。ここでは北と東に窓が開けてまして、見えるものは古びた木造2階建てで、すべて色の変った黒瓦であります。時に晴空が出たり、夕焼けになったりいたします。常時、私の目をいやしてくれましたのは、屋根の上に出て、一年中緑の葉をつけた大樹でありました。

3か年合計の、表1の幼稚園を見ますと、青が上位を占めております。数的にいえば少ないものですが、これが問題の暗い絵に通じるものかと、再び思い浮かべます。僅かではあります。全学年を通じまして、紫、灰等の支持者のいることは、貴重であり、面白いことだと思います。橙は派手な色で欧州的といえるでしょうが、日本でははやらない。つまり支持者が少ないようであります。青、紫、灰等が出て、橙が出て来ないということは、日本人の心情は静物であると言えましょう。

絵具を使用する側から、とやかく文句を言って来ました。製造会社のパステルの色の選定は黒、灰、こげ茶、白でした。ずい分長い間でした。その後売り出されたのが大人じみたもので、子供に長らく使用させましたが世間は余り異議の申し立てはない模様でした。しかしこのしぶい大人じみた色を使う時は、明るい色画紙を使用しましたので、結果論として、まあ良かったのですね、と言いたくなります。

このような時、即ち大人じみた渋い色を出した会社に美術教員達は、文句を言ったのかなと思います。もしもそうであれば、私のところにも話が流れて来たと思います。善意に解釈して、しぶいは日本的伝統でありますから、子供もすんなり受け入れまして、教師もすんなり受け入れて、結構ですと言えばよかったですと思います。しぶさは暗さと思わなかったと思われま

す。また、製造元への申し入れということもありますが、製品が出まわっても使用しないという、簡単なことも考えられます。みんなでわいわいと言わなくても、何時とはなく静かに消えていくことでしょう。

赤も朱もあると文字で書きますが、赤は明度が低く、朱墨的な朱は洋紅のような派手さはありません。日本で朱玄と並べます。玄の重さ、濃さ、しぶさ、華やかさに対応する朱泥であります。

日の丸の赤と白があります。明度の低い赤に白い布、私の知っている範囲では、絹より木綿の方が生地として多いように思います。木綿の白い生地と赤の対比が、一層日の丸の旗を美しく感じさせると思います。こんな事例を探せば、まだ出て来るでしょう。質と色という、私の課題がふえたようです。

高校を見ますと、青、赤、黒と力強い色の並びになりました。次いで、ピンクと柔らかさがありまして、黄、白と色の淡さ、弱さの配列を感じます。僅かな色の支持者は、色の豊富さを示しております。

短大になりまして、青はなお、優位を保っております。青といってもコバルトブルーで

はないかと思ひます。水彩絵具の12色のセットの中には、ウルトラマリン、セルリアンブルーはあまり無いようです。プロシャンブルーとコバルトブルーは、必ずといってよいくらいはいつております。一般にプロシャンブルーは敬遠いたしますので、コバルトブルーとなるようであります。明るい青の代表だと思ひます。地中海の色として幅広く使われています郷愁感として一層親しみを増すのではないかと思ひます。ピンクは各々の時代に、相当な支持者層を持っておりますのは、調査が本学の女子大生ということもあるかと思ひます。

表2については、暖より入ります。暖-暖へ、約30%、暖-寒へ、約26%、暖-無へ、26%、つまり82%は暖より出発してあります。寒-寒へ、5%、寒-暖へ、7%、寒-無へ、3.4%で約15.4%は寒から出発してあります。無が、0.5%になりまして、寒と無が約16%これが暗い仲間では無いかと思ひます。

お友達を描きましょう。先に黒で顔から体を描きます。頭髪を黒で塗ります。目、鼻を描きます。赤で口を描きます。次いで、はだ色をつけていきます。輪郭線の黒とはだ色が混じりあって、顔の色が黒っぽくなります。先生はきたないね、と言えば、無神経に重ねます。ただ重ねてきますと色が鈍ってきます。小学校の下学年、幼稚園に見られました。私が就職いたしました頃は、無暗と重ねた絵がありました。近所にその頃の教育ママがいて、小学4年の女の子の絵（ハツ切）を見てくれと持って来られました。重たいしめっばい絵でありました。

昭和60年6月 表1 付属高校2年生

1. 用紙、9 cm×25cm
2. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、壮年、老年
3. どんな色を好むだろうか、想像して書きなさい。

幼稚園

赤	15	明るい色	1
黄	9	めだつ色	1
桃色	4	あわい色	1
ピンク	4	原色	1
水色	2		
炎色	1		

小学校

赤	19	明るい色	1
黄	7	はっきりした色	1
青	5	かわいい色	1
ピンク	3	きれいな色	1

緑	3	原色	1
水色	1		
白	1		
中 学 校			
赤	6	派手な色	1
黒	5	派手でめだつ色	1
紫	4	あわい色	1
水色	4	原色	1
白	4	原色より薄い色	1
青	3		
桃色	3		
ピンク	2		
緑	2		
黄	2		
高等学校			
ピンク	6	暗い色	1
青	4	中間色	1
紺	4	はっきりした色	1
緑	4	鮮やかな色	1
赤	4	おとなしい色	1
桃色	2		
黒	2		
水色	1		
紫	1		
グレー	1		
ホワイトカラー	1		
大 学			
白	15	落ち着いて見える色	1
黒	13	パステルカラー	1
青	2	色々な色	1
紺	2	派手な色	1
緑	2	しぶ日の色	1
グレー	1		

朱	1		
壮年			
紺	8	中間色	2
茶	5	うす暗い色	1
青	4	暗い色	1
灰	4	落ち着きのある色	1
グレー	3	少し薄目	1
黒	3		
紫	2		
濃緑	1		
緑	1		
薄グレー	1		
赤	1		
白	1		
黒茶	1		
老年			
茶	14	暗い色	1
グレー	4	地味な茶	1
黒	3	少し暗目の炎色	1
黄土	3		
炎色	3		
青	2		
紺	2		
紫	2		
こげ茶	1		
緑	1		
深緑	1		
ねずみ	1		
赤	1		
白	1		
ベージュ	1		

幼稚園におきましては、桃色 4、ピンク 4 と別々に書き上げました。本人の考え方が、和風

か、洋風かというところに出て来るように思いました。強いて言えば、桃色の方が一寸濃く、ピンクの方がやや薄いように私は思います。同じような色は一つに統合すれば見易い表になります。感覚的意味あいを入れて、複雑にいたしました。先に触れましたように、生徒達は衣裳の色を考え、それから割り出した色ではないかと思いました。好みの色、うん。あの服地は好みの色びったりですね。良く使う色、では仕立てて、それを着て散歩に行こうよ、というようなことを、ふと感じました。街に氾濫しています若い女性達の色だと直観いたしました。

昭和60年度 表1 保1

1. よく使用した色を書きなさい。(クレヨンの短いのは使ったもの)
2. 幼児期の鮮明で無いものは書かなくてよろしい。

幼稚園

赤	23	黄	6	白	5
青	5	ピンク	4	黒	3
緑	3				

小学校

青	10	赤	9	ピンク	7
緑	7	黄	6	白	3
オレンジ	1	グレー	1	紺	1
ベージュ	1	水色	1	黄土	1
茶	1				

中学校

青	12	ピンク	10	赤	5
白	4	緑	4	黒	3
水色	3	茶	2	黄	1
レモン	1	グレー	1	オレンジ	1
紫	1				

高等学校

黒	12	青	10	ピンク	6
白	6	グレー	3	水色	3
紫	1	黄	1		

短大

ピンク	15	青	9	赤	7
-----	----	---	---	---	---

白	6	黒	6	緑	2
オレンジ	1	水色	1		

この表から、暗い絵を描く可能性のあるのは、幼稚園で22%、小学校で40%、中学校で44%、高校で55%、短大では35%と出て、平均30%は黒っぽい絵を描く可能性はある模様です。

ここで山間僻地の中学校のことを書きたいと思います。B先生と話しているうちに、絵の話になりました。それで中学生の描いた秋の山を見せて貰いました。赤、黄、緑、紫などが重なり合い、にじみ合って黒く沈んでいます。じっくりと描き込んだあとはあります。作画過程は良いと思います。結果はちっとも面白くありません。結果だけから見ると、一言、駄目であります。授業の時、混色の話、にじみの話、線の入れ方等説明をいたしました。いろ紙、42色のトナルを使うことにいたしました。色、形、構成などの話をいたしまして、抽象作品を仕上げました。この度は混色による失敗はありませんでした。観察力と素朴さで、良いものになりました。

色をなぜまわり、こすりまわりして生気の無い色の方が、黒っぽい絵より、よほど精神的に危険性がありはしないかということです。つまり重ね過ぎて、鈍く、重たいものです。これは目的の無い行動、無気力の状態から発生するもので、ほんとうに危いものだと思います。何もしたくないと、落ち込んだのは救いがたいものです。また、余談になります。私は生活指導を長くやりました。手におえない外国人がいました。幾年かたちまして、街で時に見かけるようになりました。6人の若者を使って、土木関係の仕事をしています。2度目のかみさんは良くできているので、大いに張り切っていると申しております。先生、Cは駄目ですよ。話して無駄ですね。自分自身で落ちこぼれていく、そんな過程は聞いても良いものではありません。

意識して、鈍い色にすることを、色を落とす、色を殺すと言います。この色には空気を含んでおります。意識的に行います時には、程のよさというところで、落とすことを中止いたします。

使用いたします、色の面積についての調査であります。事例を上げます。お母さんの顔の絵です。髪の毛が20%、顔や手にはだ色が20%、服に青が10%、バックは白地で50%というようなものです。このような色面の分割調査は、やっかいなものでした。1. クラス全体をまとめて、クラスの傾向を出します。2. 個人は連続してみるのが良いことだと気がつきました。面積には関係なしに、どの色を使うかにつきましては、本人のクレヨンの箱を見ればよくわかります。暖色系が長いか。寒色系が長いか、長いということは、使われて無いことであります。反対に短ければ、よく使ったことであります。クロッキーを描かせます。使って無い長いクレヨンで描かせます。これも色彩感覚を豊かにする、一つの方法ではないかと思えます。その長いクレヨンをまた使います。アブラゲチャン、つまり三角を描いて、塗り込みます。四角を描

いて、緑のトーフチャンが出来ます。自分で思うような形、直線で囲んだ。曲線だけで描いた形など描きます。外わくと異なった色で線を入れます。色の対比や類似色を知らせるのに大事なことと思います。

絵を描くのに、速い子と、遅い子がおります。速描きの子に空を塗り、水を描けと言いますと、何の意味も考えずに、ただいたずらに塗布いたします。子供は質を考えませんが、空だ、水だ、花だと思って描くことで絵になります。子供だ、よし、よし君だ、犬にしよう、プティだと思って描くのと、無神経で塗るのは、同じではありません。愛情の問題も楽しさも湧いてきます。

先生は子供に時間をつぶさせるのに、空を塗れと塗らせませす。三分間ともちません。出来ましたと、持って来た絵は、他の部分と調子はずれています。次ぎ次ぎに指示していますと、子供も初めの意気込みが無くなって、疲れてきます。だれてしまいます。子供自身何をしているのかわからなくなります。私はこのような指導したことを思い出します。

速く描いた子には、もう一枚画紙を与えるか、近くにおいて、描いた絵の話させるとか。話が発展すれば聞いてやります。手がよごれていたら手を洗わせる。ラジオ体操の下手な子には、ラジオ体操を上手にやって…とか時間を他で稼ぐことも大切だと思います。

つまり先生は、ああやりなさい。こうやりなさいと言って色のこげつきを指導しております。描くことが嫌になるような、仕向けをしているような気が近頃いたします。

先生は、ここは明るいので落とそう。ここの空間を出すために線を入れよう。質のことでもここは堅く、もっと柔らかかということがわかっています。ただ技術だけの指導をいたしますので、子供としては、意味がわからないままで無意識にやっています。

明るいので落とささいよと言います。ちょっと、こするんですよ、と言っても、その度合いはわかりません。えい、こんちきしょうと言わないまでも、こすります。大抵は過ぎる程こすります。先生は文句を言います。子供はシュンといたします。こんなことになるのなら、初めからだまって見ていて、個の発揚につとめた方が賢明だと思います。教師の助言、または示唆と言いましょうか、むずかしいなと思いました。年のせいでしょう。

近頃では、学生の困った様子を見ると、たずねます。説明をいたします。基本的なことを知りません。理解はできますが、いざやってみると出来ないという段階のようです。今まで描いた絵を消しなさいというのは、油絵の時やりました。消すのはおしかろうが、消しなさい。思い切りをつけて、ナイフでけずり取ります。すると描く度胸もつきませす。しゃんとした顔でまたはじめるものです。

小倉市の玉屋デパートで、個展を開きました。会場担当の専務と色々話をいたしました。売場で買って来た幅の広い、ズボンつりを出して見せました。赤と白と青の派手なものです。すると専務は、向こうから来る老夫婦は、派手な色があわないようですね。家で派手な色もの

を使っておれば、色には負けませんよ。私は家では派手な色を使っています。色に馴れているので、地味な服を着て、派手な商品の間を歩いても色に負けません。このズボンつりなら色に負けませんよ、との話でした。

以上のことは、絵をかく場合でも同じだなと思いました。身から出た錆と申しますし（良い意味に使われておりませんか）身から出た青は強いが、表面についた、つまり実質的でないものは、やはりその場にそぐわないと思われまます。

ボーイスカウトの先輩にN老人がおられます。足が弱ったと本人は言われます。米寿に近いと思います。門から玄関まで、15mくらいあります。向かって左側は庭です。橙、柿、枇杷、無花果、菜萵等が重なりあっております。N老人は1年中つきつぎに、花が咲いているとか、実がなっているとかにしたいという希望でした。緑の葉の方が多く、花を見ることは無いようであります。時に立ち寄りました、8月頃桜の花が咲いています。もちろん造花であります。色をさした、色をつけたと言いますのは、このことではないかと思ひます。緑の葉の中に、うす赤があるというのも一つの風ぜいかと思ひます。木の下には、1mに2mくらいの池があります。小型の金魚がおります。

学生に重い色を使いなさいと言ひます。わかりません。そうでしょう。わからないのが本当でしょう。私が油絵を描き始めて60年になります。考えてみれば使つておりました。黒をちょっと、はねて混ぜることを教へられてやつておりました。白壁は十分にこねて使えとおそわりました。近年になつて重い色を意識するようになつてきました。本當に恥づかしい話であります。

東京都T区N高等小学校にいた時の話であります。晚霞の作品があるので見に来ないかとDに誘われました。喜んで見せて貰ふことにいたしました。16切くらいの大ささでした。1. 遠山でうっすらと描いてあります。2. 中景の山で木などが少し出て来てあります。3. 近景で木が詳細に描いてあります。しつとりとした水彩画だつたと覚えてあります。Dは3. を指してこれが一番良いと思ふ、細部までよく描いてあると言ひます。私は1. 2. 3. の説明をいたしまして、色が良いではないかと話しました。Dは納得した様子でした。

同じく同輩のTの話をしたと思ひます。柏崎の出身であります。同じアパートにいたつたので、時に遊びに行きました。年間の行事、日常生活などを真実に喜んで、こまごまと話してくれました。冬ともなれば雪に覆われてしまいます。すると立札があります。この下に神社あり小便無用。この話で雪の降る量と、雪の深さの見当をつけました。雪が降る時は、夜中に起きて屋根の雪降ろしをいたします。成程なと思ひます。話だけで寒さが身にしみまます。雪降ろしを怠けた家が、雪で潰れても誰も助けに行きませんと。火事の時ひはみんな集まつて来まます。焼け跡を見ますと、家のあつた所はみな焼けて、まわりに雪の壁が四角に残つていと説明してくれました。道なれた郵便配達人でも、一本の笹竹に滑つて、下の凹みに落ちまます。すると慌てず、騒がず、人間が一人ゆつたりと座れる、空間を作つて、人の通るのを何時間でも待つ

ている。気長く待つことです。汽車の話もつくづく考えさせられました。3、4 駅先に行くにも、3 日分くらい握り飯を持って行くのだそうです。吹雪で汽車が動かない時もあると聞きました。雪国だから雪の話からはじまりました。

雪地ごく、祖父の地なれば住みにけり。

ただ読んだのでは、感じが出て来ません。こんな話を聞くと何となくわかって来ます。

沢庵漬の計算が振っていますね。菌の無い赤ん坊も、老人も食べるであろうと仮定しまして、1 人 1 日 1 本、1 年は 365 日、つまり 365 本を 1 人前として、家族の人数倍を漬けます。6 尺という酒屋が酒造りに使う桶です。大根を並べますと、菊の花のような模様になると説明いたします。この地方の人は話好きで、お茶好きでありますので、他人が来ても沢庵漬を茶のつまみにいたします。5 月か 6 月になりますと、有名な米山に雪が消え残ります。消え残る雪の形で、今年の作を占うということでもあります。ここで 1 年の天気を考えますに、半年は陰鬱な空です。それに 30 年耐えた男 T です、工作科を担当して、刃物を扱う授業だから、こわいと言っておりました。変わったことの起きなかったのは、ものに耐える気持ち、無理をしない、準備が周到であった、人に親切であった等があったためだと思います。前おきが長くなりまして、すみません。

この雪をかぶって生活した男が、私にもらした言葉です。親しい建築家がいるので、時々家の用事で訪問いたします。ドイツ風の建物で、室内の家具類も荘重だそうです。特にカーテンの重たい感触に耐え切れない。用事が終わった所で早々に引き上げると話していました。先様は時たま来たのだから、ゆっくりして下さいと言われるそうです。あのカーテンは全くやり切れない。

私は柏崎の冬は知りません。半年は鉛色の空がひろがり、半年は日がカンカンと照る日は少ないでしょう。T はなぜカーテンを、そんなに重たく感じるのでしょうか。第一印象かと思いません。カーテンの布の厚い生地でしょうか。同種色の重厚な色の模様でしょうか。また天井より下った面積の広さに圧倒されたのだろうかと考えます。

更に T の話を述べることにいたします。彼は東京に出る前は、水道局に勤めておりました。用人つまり仕事師は、雨でも、雪でも、山の上の水道局に登って参ります。小雪なら仕事をいたします。少し暖かければ雨、寒ければ雪、これで仕事を休んでいると、日稼ぎ連中は、飯が食べられません。だから雨帽子とカッパは必需品であります。この地に育った人であれば、雨でも雪でも、たいぎではありません。関東地方から来た日稼ぎ人夫は、夏の間は仕事に来ましたが、天気が崩れはじめてからは、来なくなったそうです。蛇足であります。関東はおろか関西でも雨降りには休みではありませんか。そんな話から環境と色の重さ、重い色を使いなさいと言っても、山口県では見当がつかかねると思います。環境の色が身にしみ込んでいません。

プティ、私の家の柴犬です。雨降りでも町角、岩かどで、においをかぎまわります。岩にし

み入る。と芭蕉が読んでおりますが、岩に犬の尿のにおいもしみ込んでいるのだろうかと思ひます。

九州美術館で見ましたロシアの画家ですが、名前を忘れまして。20号くらいの男の肖像画です。絵具を見まして、にぶい色だなと思ひました。中央アジアの黒土層はこんな泥かなと思ひました。芽が出て葉が繁り、実を結ぶと枯れる、冬を通過して同じことを繰り返して、幾千年か積もりに積もった。肥料なして作物の出来る、いい農地になった。そんな話を思ひ起こしながら見ました。この画家も幾年か描きつづけたのかと思ひました。平たく厚く、絵具がついてます。人の心をゆり動かすのは、平凡なアイデアではありません。何はともあれ、これだけの鈍い色を使っておりますが、一歩離れて見ますと、鈍さを感じさせません。大家の仲間でありましょう。

日本民話の中に、江戸の絵師と長州の絵師の腕くらべがあります。江戸の絵師は、大井川から上った男の足のすね毛を立った毛にしました。すね毛は濡れたので、足にくっついて寝ているはずと、指摘されました。こんどは長州の絵師の番です。みんなの前で紙を暗黒に塗り上げました。尋ねられたので、闇夜に烏と答えました。夜だからと言って、画面を黒にする必要はありません。幼児はレントゲン法という描き方をいたします。財布を描いても中の銅貨まで見えるように描きます。

いわば芸術的表現です。石井鶴三の夜の絵は、白い地に人物がありまして、上部にさりと一抔の黒を流しております。難渋な黒い絵から始まりました。闇を黒く塗った絵と、闇を白で表した絵を上げて、一応終わりたいと思ひます。継続研究の分は明日に期待をかけたいと思ひます。

明るい絵も、暗い絵も、身から出た錆でしょう。親ゆずり、環境の問題、学校の伝統精神、家庭におきましてのそだちの問題等がひびきあい自身の確立が生じると思ひます。